

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291100277		
法人名	株式会社ほっとステーション		
事業所名	グループホームきずなHANARE		
所在地	千葉県木更津市下郡984-2		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である、主役は利用者であることを強く意識し、「居心地が良く、自分らしい生活」が出来るお手伝いをする。人権尊重、権利擁護、主体性の尊重に基づき、自己決定を尊重しチームでケアに取り組んでいます。医療面では、月2回の提携医院からの往診、併設デイサービスには看護師が常勤であります。また、当事業所ではご家族が気軽に遊びに来れるアットホームで暖かい施設づくりを目指しています。現在はコロナ感染予防の観点から、短い面会・外出自粛となっておりますが、入居者様ご家族とは頻りに連絡を取り合い、いい関係づくりが出来ていると思います。周辺環境も良く、窓に広がる夏の田園風景や秋の季節を感じる虫の音など、四季折々の景色を感じられ、誰もがどこか懐かしい気持ちになる施設です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年足らずであり、新型コロナ対策をしながら運営している。支援で大切にしていることは「利用者が主役」ということであり、本人の意思や自己決定を尊重した支援に心掛けている。利用者の希望を聞き、調理や食器洗い、テーブル拭きなどの食事の準備や、掃除・洗濯物たたみ等の家事など、できることを手伝ってもらっている。食べたい物や散歩の希望、テレビの番組等は選択肢を示して、利用者が決めている。食事は手作りであり、職員が利用者の希望を聞いたりして献立を決めている。コロナ禍が収束したら地域交流に取り組みたいとしている。開設して間もないが、利用者が自分らしい生活ができるような支援に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同で事業所の理念にもある「居心地の良い」「居場所を作る」を実践し、まるでご自宅のHANAREにいるように、入居者様にはご自宅のように過ごして頂いている。	ホームの理念に沿って、利用者には自宅の「離れ」にいるように過ごしてもらうことに心掛けている。管理者は職員に利用者が主役であり、職員は黒子に徹し支援するよう伝えている。家族アンケートでも「本人は穏やかで安心した表情が見られる」と回答者全員が答えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染拡大予防のため外出。交流を控えている。	開設して1年未満であり、コロナ禍での地域交流は控えている。開設前から地域住民にはホームの説明をしていたため、ホームの存在は認識してもらっている。また、自治会に加入しており、管理者が神社の清掃活動等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	質疑応答メインの地域密着会議開催で近況報告をし、支援内容を説明・理解を頂く予定であったが、現在はコロナ感染拡大予防の為、資料配付のみ※質問などは電話で受け付けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染拡大予防の為、資料配付のみ※質問などは電話で受け付けている。	コロナ禍のため運営推進会議は書面開催としている。メンバーは市の担当者や地域包括支援センター職員、まちづくり協議会会長、家族等であり、利用者の情報や活動状況を送付し、電話等で質問を受け付けている。	書面での運営推進会議は、ホームの活動や取り組み内容を送付し、質問や意見を書面でもらい、双方向でやり取りをするともに、会議録は全家族への送付が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けておられる方を受け入れており、社会福祉課、地域包括と連携を取っている。 管理者は街作り協議会理事として地域行事などに参加出来る体制づくりをしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員も参加しており、相談ができる環境にある。地域のまちづくり協議会は行政が活動の支援をしており、管理者も協議会の理事であることから協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針を生かし、勉強会等開催している。	身体拘束適正化の指針を作成し、勉強会を実施している。また、管理者、主任等で身体拘束廃止について話し合っている。行動を制限する言葉にも注意することを職員に伝えている。	管理者・主任等で話し合った内容は記録に残し、職員に周知するとともに、運営推進会議で報告してもよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で情報共有し、ひとりで抱え込まない、チームでケアする、環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に虐待チェックシートなどを使い、カンファレンスを行なっている。 成年後見制度に関しては学べる場を設ける必要ありと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となり締結、解約を行っている。入居時はご本人ご家族の希望や困りごと、質問を聞き取り説明を行っている。職員には基本情報を開示しカンファレンスを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時やご家族からの電話時に近況報告し、意見・希望・感想を聞き取っている。 毎月の請求書送付時に写真付きの近況報告をしている。	家族の来所時や電話があったときは、本人の近況を報告して要望や意見を聞いており、対応した要望等については報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、介護主任が職員の意見提案の窓口になってくれている。 月末のカンファレンスで意見交換出来る場を設けている。	毎朝のミーティングや毎月のカンファレンスで、職員の意見を聞いている。普段は主任が窓口になり、意見を聞いたり相談に乗っている。職員の意見等は、内容を確認し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任・その他職員の壁を取り払い、誰もが意見を言える環境づくりをしている。また、努力や実績を反映し給与にて評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修、資格取得の費用を負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大予防の為、現在は交流自粛している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人にも見学して頂き、現在の状況。不安な事を聞き取り、説明し安心感を持って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時・入所手続き時にご家族が不安な事など、お聞きしてサービスに反映させている。 入所前の連絡は密に取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・居宅ケアマネージャー・病院相談員等から情報収集・共有をし、「その時」必要としている支援・何が必要かを知り、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様の生活の支援の為に職員が存在していることを念頭におき関わっている。調理方法を教えて頂いたり、掃除洗濯など生活を共にする事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時やご家族からの電話時に近況報告している。ご本人の体調に変化があった場合は随時電話連絡を行なっている。ご家族にも受診や散髪など協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大予防の為、現在は外部交流自粛している。 併設デイサービスからGHIに移動の入所者様は、デイサービスへなじみの方に面会に行く支援をしている。	コロナ禍のため外部との交流は自粛をしている。デイサービスが併設されており、デイサービスに知り合いが来ている場合は面会の支援をしている。現在、玄関先での面会を再開しており、孫がひ孫の写真を持って訪ねてきたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動、行事で交流する機会がある。TV体操を行ない、ホーム全体で関わり合いを持てる環境がある。DVD体操・音楽鑑賞・ドライブ・敬老会etc		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方は在隊介護に戻り、併設デイサービスを利用して頂いている。必要時応じ相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームでの生活に対する希望・意向は介護計画書作成時にご本人ご家族と話しアセスメントし把握に努めている。	利用者の思いや意向は日常のケアの中で聞き取っている。また、利用者が自ら答えられるよう、選択肢を少なくして聞くようにしている。コミュニケーションが難しい利用者は、家族や入居前のケアマネジャーなどからも情報をもらうなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・居宅ケアマネジャー等から情報収集しこれまでの生活歴の把握に努め、自分の意思で暮らして頂けるような支援に取り組んでいく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを整え、毎日の日課・こだわり・思い思いの過ごし方を常時見守り観察している。朝夕のバイタルチェックをし、記録している。出来る事はやって貰い、やろうという意欲を大切にケアに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所に向け本人家族、その他関係者と面談し話し合い介護計画を作成し担当者会議を行なっている。月末にカンファレンスを行いモニタリングはその実施内容も参考にしている。	介護計画はケアマネジャーが作成しており、利用者、施設長、職員が参加し担当者会議をおこない、課題を明確にして支援に取り組んでいる。また、毎月全職員でモニタリングをおこない、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録・業務日誌・夜勤日誌を記録している。その他、排泄記録・通院記録なども活用し申し送り、職員間で言葉を交わし情報共有しながら、ケアの方法やサービス内容を見直し役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中、面会はなるべく控えて頂いているが、必要に応じ短い時間の面会のみ許可している。短い時間でも気軽にご家族が気軽に来所出来るように努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外出は控えている。地元スーパーの移動販売をお願いしており、毎週1回敷地内でお買い物を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との連携があり、月に2回の往診による健康管理をしている。職員送迎にての外来受診も対応している。	提携医療機関の医師の定期的な往診と、職員として配置している看護師との連携で緊急時の対応もできている。提携医への受診はホームで支援し、専門医への受診は家族の協力を得ておこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイサービス常勤看護師に情報伝達し、対応方法の指示を受ける体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関と連絡をとり情報提供をし、出来るだけ早い退院が出来るように努める。退院後の相談など、ご本人ご家族が安心出来るように、退院説明には職員も同席する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、終末期には、提携医療機関医師よりご家族に看取りの説明を行い同意書を交わす。	重度化対応(看取り介護)に関する指針を整備し、契約時に説明している。その時期がきた時点で、医師からの説明と共に家族の意向を確認し、同意書をもっている。開設間もないホームであり、現時点で看取り経験はないが、看取り介護を実施する準備はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関との連絡連携体制がある。併設デイサービス看護師による急変時の対処方法を事前に確認し、周知している。また、今後予想される急変がある入所者様がいる場合は主治医などから事前に対処法を確認周知する。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害・風害に備え年2回の避難訓練を実施	今年度は地震による火災想定の実践を実施した。実施後は職員で課題を出し合い、次回に繋げるよう話し合っている。自治会長には計画書をみてもらい協力を仰いでいる。また、近隣住民にはホームへの避難も可能と伝えている。備蓄品では発電機やカセットコンロなどと20人分くらいの食料を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様への尊厳や敬意の念を持って言葉かけを行なっている。	利用者は人生の先輩であり、タメ口で話さない、呼称は苗字にさん付けで呼ぶなど、利用者の尊厳に配慮している。また、入浴や排泄などは、無理強いをしないことを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺っている。選びやすい方法、選択する数を少なくして選びやすくして、自己決定しやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を伺い、希望がある場合は、ご本人の思いが通るように努め、職員が対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は化粧やブラッシング、男性は髭剃りを行なったり、朝どの服が良いか引き出しから選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食材を切ったり、下ごしらえを職と一緒にしている。食べたいメニューを聞いてリクエストに答える。食器洗い・テーブル拭きを手伝って頂いている。	昼食、夕食は職員の手作りで提供している。昼にはお弁当を出すこともあり、変化を持たせるように工夫している。食事の準備では利用者が調理や食器洗い、テーブル拭きなどに参加している。また、職員と一緒にでおやつ作りなどで楽しむことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夜は家庭的なメニュー献立の提供を心がけている。こまめに水分補給をして記録している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわからない方には兆候が見られたら声がけし案内している。 内服薬や歩行運動を勧め、一定のリズムで排泄出来るように支援している。	日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は利用者の動く音を職員が察知して支援している。腰が曲がり目線が低い利用者のため、居室からトイレまでの動線をテープで分かりやすくしたり、トイレの表示もその利用者の目線に合わせてドアの下の方に表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食材の提供。 処方のある方には服薬調整を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いはいしない。 清潔保持の為、少なくとも週2回を目安に声がけをし入浴を勧めている。	入浴時間は、できる限り利用者の希望に沿うようにしている。決して無理強いせず、週2回は入れるようにしている。順番は職員がその日の利用者の状況を見て決めている。湯温は一人ひとりの好みの温度で調整し、入浴が楽しいものになるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼夜逆転や生活リズムが狂わない程度に適度にお昼寝して頂いている。夕食後はテレビ観賞し団らん、就寝まで穏やかに過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表で常時確認出来る体制がある。 服薬内容変更に関しては、連絡ノートで職員は周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の掃除機がけ・テーブル拭き・食器洗い・洗濯たたみ・調理・味見など、行なっている。 敬老会の実施		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えている。3月は施設近くでお花見、普段は施設近くの散歩を楽しんでいる。地元スーパーの移動販売をお願いしており、毎週1回敷地内でお買い物を楽しんでいる。	管理者は、できる限り外出の機会を作っており、開設間もない時にも近隣での花見を楽しんだ。また、日常的にも散歩希望の利用者は職員と共にでかけている。週に1度移動販売車が来てくれるため、利用者も買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持無し。 預かり金は事務所金庫にて保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には本人と代わりお話しして頂く機会がある。携帯電話を持参されている方もいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気、消臭剤の設置で工夫している。 四季やイベントに合わせて飾り物など飾っている。	リビングには広い掃き出しの窓があり、避難用の出口にもなっている。キッチン是对面式で、職員は作業しながら利用者の見守りができる。訪問時は、利用者と職員と一緒に飾りつけをした大きなクリスマスツリーが飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりでぽつんと孤立しないように声がけしている。他入所者様と交流しやすいように、声がけし席替えなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物を持参して頂き、レイアウトもご本人ご家族にお任せしている。家族写真なども飾り、心地良く過ごせるように工夫している。	居室には、エアコン、ベッド、キャビネット、防火カーテンを設置している。利用者は入居時にタンスや衣装ケース等、使い慣れた家具を持ってきている。また、居室のドアには表札を掛けており、入居者の目線に合わせ、高さを変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレマーク、居室には氏名を貼り、自分の部屋だとわかるようにしている。それぞれのストレングスを探し、出来る事をいかした部屋割り、導線を工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと